

デジタルアーカイブでまちの魅力発信

～地域の情報拠点として、図書館にできること～



くだまつ

下松市立図書館
館長 長弘 純子

2020. 11. 5

1. 下松市の概要

- 瀬戸内海に面した山口県の南東部に位置するコンパクトシティ（「**住みよさランキング2020**」 **33位**）。
〈面積〉89.36km²（県内で最も面積が狭い市）
〈人口〉57,241人（R2.3.31現在）
〈世帯数〉26,287世帯（R2.3.31現在）
- 大正期から、**工業都市**として発展。近年は、県東部の商業や物流の拠点として躍進。

豊かな自然に包まれながらも**都市基盤や商業施設が充実**した便利で暮らしやすいまち。

地方都市としては珍しく**人口が増えている（微増）**。特に子育て世代の増加が目立つ。

工場や大型商業施設に勤務する人が多く、**就職や転勤等で下松に住むようになった**と考えられる。

2. デジタルアーカイブの出発点

下松から国指定重要文化財が出土したことを知らない人がたくさんいる！？



宮ノ洲古墳出土
三角縁盤龍鏡
(国指定重要文化財)



宮ノ洲古墳
のあった辺り。
現在は工場
の敷地内。

自分自身、郷土のレファレンスを受ける度に、生まれ育った下松のことを何も知らないことに愕然とすることに...

多くの住民が

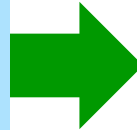
- ★下松には、歴史が何もないと思っている。
- ★郷土史は難しくてとっつきにくいイメージを持っている。
- ★子どもの頃に地域の歴史を学んだり、大人から伝え聞いた記憶がない。

3. まちの歴史を未来に手渡すために

まちの歴史を知ると・・・

- 普段何気なく見ていた景色が、突然**意味あるものへ**と変わる。
- まちが好きになる。⇒まちへの**愛着・誇り**

教科書に出てくるような有名な歴史はなくても、今の下松があるのは、郷土の先人達が刻んできた確かな足跡があるから。



- ★歴史は、まちの魅力(資源)になり得る。
- ★今を生きる私達には、まちの歴史を未来に手渡していく責務がある。

まちの歴史(魅力)を未来に手渡すために
図書館から「まちの歴史」を発信しよう！！

4. まず取りかかったこと

①貴重な郷土資料を守ろう！

※郷土資料デジタル化に着手

- ・2012(平成24)年度 下松市広報デジタル化事業 620千円
 - ・2014(平成26)年度 郷土資料デジタル化業務 300千円
- 当時の公開の手段⇒図書館内に設置したパソコンにて閲覧

★郷土資料のデジタル化を始めて困ったこと

①何からデジタルデータを作成するか(優先順位)

⇒どの資料をデジタルにするべきかの把握が必要。

②どのようなデータを作成するか(データの仕様)

③著作者、所有者の資料利用承認をどうするか(著作権等)

⇒できるものから承認申請をし、デジタル化への準備。

④どのように情報発信するか(公開の手段)

②まちに興味・関心を持ってもらおう！

※山口県や下松市に関する講演会の開催

- 2013(平成25)年度
面白くて為になる 山口弁よもやま話
- 2014(平成26)年度
幕末徳山藩の動向と諸隊の活動
- 2015(平成27)年度
長州ファイブ～鉄道之父 井上勝を中心に～
- 2016(平成28)年度
山頭火と周南の四人の俳人たち

県との連携

★参加者同士のつながりが生まれる等、手応えは感じたが、講演会に参加するのは、元々歴史に興味や関心がある人であり、**興味がない人達を巻き込むような広がりは見られなかった。**

5. 見えてきた壁

①来館の制約

- 図書館設置のパソコンでしかデジタルデータが閲覧できない。
- 講演会に参加しなければ、情報が得られない。
- 常時、情報が得られない。

②気軽に楽しめない

- 情報が身近にない。
- 偶然情報に行きつくことはない。

③歴史を集約する施設がない

- まちの歴史がつかめない。
- どんな文化財があるのかわからない。

④情報公開の効果的な手段がない

- 広く情報発信する手段がない

⑤デジタル化のための十分な財源がない

- フルテキスト化や高精細画像作成を諦めざるを得ない。

いつでも

どこでも

だれでも

6. 課題を整理し、解決策を考える

《課題》

★市の歴史を集約する**拠点づくり**

デジタルの拠点・実物にふれる拠点（相乗効果）

★効果的な**情報発信手段**の整備

いつでも・どこでも・だれでも

★**財源**の確保

役に立つデジタルデータの作成



《解決策》

★閉校した小学校の再活用案

下松市郷土資料展示収蔵施設「島の学び舎」オープン

★**クラウド型プラットフォームシステム**導入

「下松市郷土資料・文化遺産デジタルアーカイブ」の立ち上げ

★**助成金**の活用

「下松市郷土資料デジタル化事業」の実施

7. 下松市郷土資料・文化遺産デジタルアーカイブ

いつでも・どこでも・だれでも

☆スマホやパソコンで、市内の文化財の画像や、郷土資料、昔の写真が閲覧できる。

☆下松市立図書館のHPやインターネット検索から入れる。

☆文化財は高精細撮影をしているので、拡大して見ることができる。



8. 使われるデジタルアーカイブを目指して

デジタルアーカイブ公開講座を実施し、多くの人に使ってもらおう！

*** 2016(平成28)年度**

- **9/1 「下松市郷土資料・文化遺産デジタルアーカイブ」公開**
※デジタルデータで、下松市の歴史を集約
- **10/9 公開発表会(大人対象)**
- **10/18 下松市郷土資料展示収蔵施設「島の学び舎」オープン**
※古墳の出土品等を実際に見れる
- **11/4 山口県公立図書館職員専門講習会**
- **12/18 公開発表会(子ども対象)**
- **2/5 地域の高齢者学級で出前講座(中村地区)**

*** 2017(平成29)年度**

- **8/2 地域の高齢者学級で出前講座(花岡地区)**
- **8/3 市小学校教職員社会科部会出前講座**
- **3/21 公開講座「デジタルアーカイブで蘇った宮洲塩田図」**

9. デジタルアーカイブからの広がり

①資料提供(デジタルアーカイブの素材)

- ・昭和30年代の市内を撮影した写真の寄贈(市民から)
- ・調査研究の成果物の提供(市民から)
- ・県無形民俗文化財切山歌舞伎の資料の提供(保存会から)

②関係団体等との協力体制

- ・下松市郷土資料展示収蔵施設「島の学び舎」
- ・下松地方史研究会
- ・歴史民俗資料展示コーナー
- ・とよい今昔探訪クラブ

まちの歴史が取り
上げられる時、
図書館が頼りにさ
れるようになった。

③県外からの問い合わせ・交流(来館)

- ・日立市の人(久原房之助に関して。郷土資料交換。)
 - ・秋田県小坂町小坂まちづくり株式会社(久原房之助に関して。郷土資料交換。)
 - ・岡山市の人(宮ノ洲古墳に関して。)
 - ・福岡市の人(日立製作所笠戸工場に関して。)
 - ・鎌倉市の人(矢島専平に関して。資料交換。)
- ⇒平成29年に市に寄贈された旧矢嶋邸の水彩画の作者が判明。

④市の関係部署との連携

- ・市役所の事業とのタイアップ⇒**まちの魅力を発信するツール**
- ・公民館や他施設で企画展(写真展等)開催時の協力
- ・教員研修

10. 市の事業×図書館×デジタルアーカイブ

●まちの魅力を発信する取り組み① 2017(平成29)年

興味を持ってもらえるように企画展の配布資料を作成し、各自で調べることができるように「下松市郷土資料文化遺産・デジタルアーカイブ」の紹介を添える。

市



図書館



2017(H29) 3.5

市内にある(株)日立製作所鉄道ビジネスユニット笠戸事業所が製造する英国向け高速鉄道車両の陸送イベントを開催。下松第2埠頭までの道路は、市内外からのたくさんの見学者で賑わった。

2017(H29) 2.24～3.22

企画展 100年前、下松を世界的大工業都市にする計画があった！

実業家 久原房之助が100年前に発表した「下松大工業都市建設計画」にスポットを当て、ものづくりのまち下松の基礎となった歴史を発信。

●まちの魅力を発信する取り組み② 2017(平成29)年

興味を持ってもらえるように企画展の配布資料を作成し、各自で調べることができるように「下松市郷土資料文化遺産・デジタルアーカイブ」の紹介を添える。

市

2017(H29) 7.3

矢嶋作郎関係資料の寄贈

周南市に生まれ下松市で余生を送った矢嶋作郎に関する資料が子孫の方(東京在住)から寄贈された。

市内東豊井の旧矢嶋邸(現東洋鋼鈑株式会社 下松事業所)を描いた水彩画16枚、掛軸1幅、写真4枚、図書4冊。

図書館



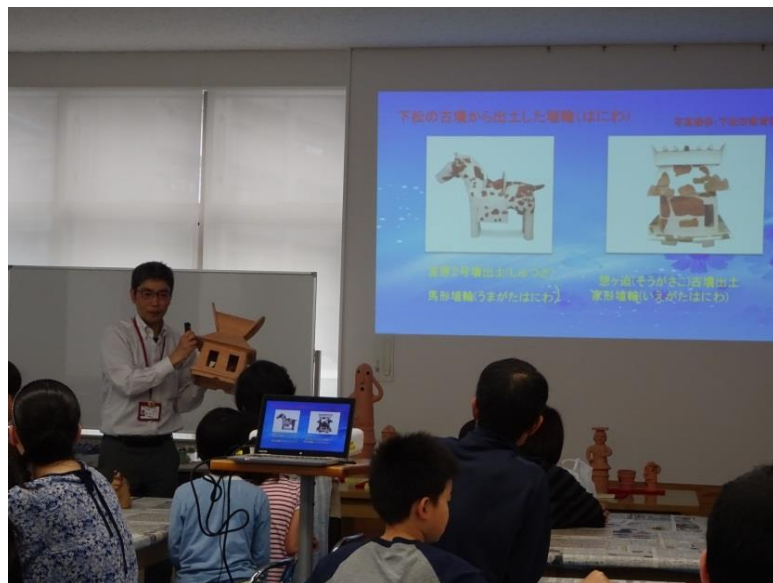
2017(H29) 7.4～8.23

企画展 矢嶋作郎と矢嶋邸
～幕末から明治を駆け抜けた矢嶋作郎が晩年を過ごした邸宅～

※2～3月に実施した企画展「100年前、下松を世界的大工業都市にする計画があった！」と深い関わりがある内容だったことから大きな反響が！

●まちの魅力を発信する取り組み③ 2018(平成30)年

子ども達にもまちの歴史に興味を持ってもらえるように、山口県立博物館と連携し、行事を開催。興味を持ったことについて、各自調べることができるように「下松市郷土資料文化遺産・デジタルアーカイブ」の紹介を添える。



2018(H30) 5.13

山口県立山口博物館教育普及講座 「埴輪を作ろう！」

学芸員から、市内の古墳や、出土した埴輪（アーカイブ掲載画像利用）や、当時の人々の暮らしについて説明。



参加した子どもが作った埴輪

※歴史資料展示収蔵施設「島の学び舎」についても紹介。
デジタルで知ったことを、島の学び舎の展示で現物確認。

●まちの魅力を発信する取り組み④ 2019(令和元)年

興味を持ってもらえるように企画展の配布資料を作成し、各自で調べることができるように「下松市郷土資料文化遺産・デジタルアーカイブ」の紹介を添える。

市



2019(R1) 8.9

クルーズ客船「ぱしふいっくび いなす」下松初寄港イベント

市制施行80周年記念事業。
クルーズ客船寄港にあたり、市
をあげて歓迎するイベント。

※過去2回実施した企画展よりも
更に時代を遡った歴史を紹介し、
下松再発見をした人が多かった。

図書館



2019(R1) 7.9～8.18

企画展 海と下松

～書物をひもとくと見えてきた古の下松～

下松は、産業が興るずっと昔から天然
の良港として知られ、船が着き、歌が詠
まれるほど美しいところだったことを書
物を通して紹介。

●まちの魅力を発信する取り組み⑤ 2019(令和元)年

市制施行80周年記念事業を図書館で2つ実施。

＊デジタルアーカイブグレードアップ事業

	図書	写真	絵画・地図・ 書画等	土器・銅鏡・ 絵馬等	合計
R1年度以前掲載数	9	0	6	25	40
R1年度掲載数	41	567	15	0	623
合計	50	567	21	25	663

※トップページのリニューアル(資料への入口を分かりやすく)

市民から寄贈された昭和30年代の写真や、市所有の昔の写真を多数掲載。

＊『復刻版 秋の夜話』編集発行事業

『秋の夜話』は、大正6年に久原房之助が発表した「下松大工業都市建設計画」に賛同し、地元の中心人物として用地買収等に尽力した矢島専平氏が、市制施行直前の昭和14年10月に、下松の発展を願って綴った手記。その原本に、解説等を付けて復刊。ものづくりのまち下松の基礎となる歴史を紹介。

●まちの魅力を発信する取り組み⑥

図書館に2つのコーナーを常設。興味があることを各自で調べることができるように「下松市郷土資料文化遺産・デジタルアーカイブ」の紹介を添える。

《くだまつ再発見コーナー》



市の歴史を紹介するパスファインダー

《くだまつ情報コーナー》



郷土資料・行政資料・各種パンフレット・リーフレットを集めたコーナー

まちを知るともっと
まちが好きになる！

11. デジタルアーカイブ年間アクセス件数の推移

	年間アクセス件数(件)	デジタル化費用(千円)	主なデジタル化事業内容	備考
2012年 (H24)	—	(自)620	市広報(創刊号1950. 5. 3～)のPDFデータ作成。	7月図書館新館開館
2013年 (H25)	—	0	—	著作物利用承認申請の手続き開始
2014年 (H26)	—	(自)300	郷土史を調べる上で必要不可欠な郷土資料3冊のPDFデータ作成。	
2015年 (H27)	—	(自)300	古墳調査報告書等のPDFデータ作成。	H27図書館振興財団提案型助成事業採択(2カ年事業)
2016年 (H28)	83,793 (9～3月)	(自)300 (助)10,533	『下松市史』、市発行の郷土資料のデジタルデータ作成、市内の寺社所有の文化財の高精細撮影データの作成・公開。	9月「下松市郷土資料・文化遺産デジタルアーカイブ」公開
2017年 (H29)	246,131	(自)850	県立博物館所蔵「宮洲塩田図」、「覧海軒図」、「走筆戯贈」の高精細データ作成・公開。	
2018年 (H30)	325,523	(自)2,000 (助)2,742	公開済図書でPDFデータのもののフルテキスト化。	H30図書館振興財団提案型助成事業採択(3カ年事業)
2019年 (R1)	241,134	(自)1,000 (助)5,825	トップページリニューアル。昔の写真、切山歌舞伎保存会資料、行政資料、郷土資料のデジタルデータ作成・公開。	市制施行80周年記念「デジタルアーカイブグレードアップ事業」「復刻版 秋の夜話」
2020年 (R2)	229,983 (4～10月)	(助)686	小学校社会科副読本、リーフレットのデジタルデータ作成・公開。	「古地図散歩でまちの魅力発見事業」実施

12. 今後の課題

デジタルアーカイブの立ち上げは、到達点ではなく出発点！！

①アーカイブ素材選び

- ・著作権者への申請(できるところから随時)
- ・デジタル化の優先順位(何が必要かの把握)

②飽きられないアーカイブづくり

- ・事業の継続性(財源確保)
- ・掲載資料の充実(資料の追加)
- ・わかりやすく、操作しやすく(見直し・修正)

③使われるアーカイブづくり

- ・デジタルアーカイブの周知
- ・関係部署、関係団体との連携
- ・アーカイブで調べたくなる企画
- ・小学校、中学校との連携

⇒社会科授業でアーカイブ掲載資料を活用するプログラムの構築

デジタルアーカイブ
で何をするのか。

13. 今こそデジタルアーカイブが力を発揮する

〈現状〉

☆コロナ禍

⇒家で過ごす時間が多い。遠出ができない。

デジタルアーカイブで、自分達のまちを知ろう！

☆GIGAスクール構想（小中学生に1人1台タブレットの配付）

⇒先生達は、タブレットをどのように活用しようか悩んでいる。

ふるさと学習、社会科授業に活用！

☆下松市電子図書館運用開始(R2. 10. 30)

⇒デジタルアーカイブと電子図書館の連携(リンク付け)

〈令和2年度下松市立図書館新規事業〉

☆古地図散歩でまちの魅力発見事業（地域活性化センター助成事業）

⇒江戸時代に藩が作成した古地図を用いてリーフレットを作成し、ボランティアガイド付きの古地図ウォークを実施する。

まちを歩き、興味を持ったら、アーカイブで検索！

これからも、デジタルアーカイブで
下松市の魅力を発信していきます。
ご清聴ありがとうございました。



下松市公式マスコットキャラクターくだまる
(ゆるキャラグランプリ2020 32位)